六方晶窒化ホウ素挿入層によるイオン液体ゲーティング時における化学反応の抑制効果

Suppression of chemical reaction under ionic liquid gating of VO2 with a hBN insertion layer

大阪大学産業科学研究所¹,関西大学システム理工²,物質材料研究機構³

滝川 潤¹, 山本 真人², 谷口 尚³, 渡邊 賢司³, 神吉 輝夫¹, 田中 秀和¹

Osaka Univ.¹, Kansai Univ.², NIMS³

Jun Takigawa¹, Mahito Yamamoto², Takashi Taniguchi³, Kenji Watanabe³, Teruo Kanki¹,

Hidekazu Tanaka¹

E-mail: takigawa77@sanken.osaka-u.ac.jp

近年、イオン液体を用いた電解質ゲーティング(電気二重層トランジスタ: EDLT)が~ 10¹⁵ cm⁻² もの極めて高い電荷密度を集めることが可能であるため大きな注目を集めている^[1]。し かし、電解質ゲーティングは化学反応に起因する物性変化の報告もなされている^[2]。この化学反 応は物質からイオン液体への酸素の流出に起因し、イオン液体と VO2 チャネルの間に単層グラフ ェンを挿入することによって抑制されることが報告されている^[3]。

今回、化学的安定性およびイオン不透過性に優れる六方晶窒化ホウ素(hBN)^[4,5]を挿入 層とした EDLT デバイスを作製し、その化学反応抑制効果を評価した。パルスレーザ法により Al₂O₃(0001)基板上に VO₂ チャネル(膜厚 35 nm)を形成の上、hBN(厚み 16 nm)およびイオン 液体(DEME-TFSI)を配置し(図1参照)、ゲーティングを行なった。ゲーティング前後のラマンス ペクトル(励起波長 532 nm)の比較より、hBN 挿入層無しの場合 VO2に起因するラマンピークは ほぼ全て消失したのに対し、挿入層有りの場合はピーク半値幅(614 cm⁻¹ ピーク)10%程度の広が りが観測されるものの、ピーク構造は維持され VO2 薄膜全体の化学変化が抑制されたことが示さ れた(図2参照)。また、チャネル抵抗のゲート電圧依存性を図3に示す。hBN 挿入デバイスにお いてもチャネル抵抗は 95%に及ぶ大幅な減少を示しており、これはゲーティングによって界面近 傍のみに形成される低抵抗領域の寄与が大きく観測されためと思われる。当日は界面低抵抗領域 の形成機構についても報告する予定である。



Fig. 1. The structure of hBN-inserted device. Fig. 2. Raman spectra of initial VO2 (a)schematic illustration, (b)optical image



(green), gated VO₂ with hBN (red) and without hBN(blue).





参考文献: [1] T. Fujimoto and K. Awaga, Phys.Chem. Chem. Phys., 15, 8983 (2013).、[2] J. Jeong, N. Aetukuri, et al., Science 339, 1402–1405 (2013). [3] Y. Zhou, S. Ramanathan et al, Nano Lett. 15, 1627– 1634 (2015). [4] K. Zhang, Y. Feng, et al., J. Mater. Chem. C, 5, 11992, (2017). [5] L. H. Li, Y. Chen, Adv. Funct. Mater. 26, 2594–2608 (2016)